

公表

## 事業所における自己評価総括表

|                |              |     |                 |
|----------------|--------------|-----|-----------------|
| ○事業所名          | 児童デイセンターこすもす |     |                 |
| ○保護者評価実施期間     | 2026年2月28日   |     | ～<br>2026年3月13日 |
| ○保護者評価有効回答数    | (対象者数)       | 38名 | (回答者数)<br>23名   |
| ○従業者評価実施期間     | 2026年2月28日   |     | ～<br>2026年3月6日  |
| ○従業者評価有効回答数    | (対象者数)       | 8名  | (回答者数)<br>8名    |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2026年3月16日   |     |                 |

## ○ 分析結果

|   | 事業所の強み(※)だと思われること<br>※より強化・充実を図ることが期待されること  | 工夫していることや意識的に行っている取組等  | さらに充実を図るための取組等  |
|---|---|--|---|
| 1 | 遊びを通じた療育を大切にし、児童が楽しみながら成長できる支援を行っている。活動の中で自然な関わりを生み出し、友達との関係づくりや社会性、ルールを学ぶ機会を大切にしている。また、法人理念である「自他相愛」のもと、児童一人ひとりの気持ちや個性に寄り添いながら安心して過ごせる環境づくりを行っている。 | 活動の中に遊びや体験活動を取り入れ、児童が主体的に参加できる環境づくりを行っている。遊びの中で友達との関わり方や順番・ルールなどを自然に学べるよう関わり方を工夫している。また、児童の興味や関心を大切にしながら楽しく活動できる支援を心がけている。 | 児童の興味関心を取り入れた活動内容を継続的に検討しより効果的な療育活動につなげていく。季節行事やイベント、体験活動なども取り入れながら、児童が楽しみながら様々な経験を積むことができる事業所づくりを目指していく。 |
| 2 | 職員の支援経験やスキルを活かしながら児童との関わりを大切にしている。日常の関わりの中でコミュニケーションを大切に、児童の気持ちや思いを受け止めながら信頼関係の構築を図っている。  | 日常の関わりの中で感謝の言葉や相手を思いやる声掛けを意識し人との関わりの大切さを伝えている。また遊びや活動を通して児童同士の関係づくりが広がるよう支援を行っている。   | 集団活動や日常の関わりの中で児童同士の関係づくりを支える支援を継続して行う。共に活動や取り組みに参加し楽しい思いなどを共感・共有できるよう今後も支援を行って行く。                         |
| 3 | 職員間のチームワークが良く児童の様子や支援方法について共有しながら支援を行っている。児童の特性や状況を職員間で共有することで、一人ひとりに応じた支援を行う事ができている。   | 日々の申し送りや職員間のコミュニケーションを大切に児童の状況に応じた支援を行い柔軟に対応することを心がけている。   | 定期的な話し合いや振り返りを行い支援の質の向上と共通理解を深めていく。   |

|   | 事業所の弱み(※)だと思われること<br>※事業所の課題や改善が必要だと思われること   | 事業所として考えている課題の要因等  | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等  |
|---|--|--|---|
| 1 | 支援内容や日々の活動について振り返りを行う時間が十分に確保できない場合がある。日々の支援を優先する中で、活動内容や児童の様子について整理する時間が限られてしまうことがある。 | 日々の業務や支援を優先する中で記録や振り返りの時間が限られることがある。また個々の支援内容や気づきを職員間で共有する機会が十分に確保できない場合がある。 | 支援記録の整理や振り返りの時間を意識的に確保し、職員間で児童の様子や支援方法について共有する機会を増やしていく。活動内容や関わり方の振り返りを行う事で、より質の高い支援につなげていく。      |
| 2 | 地域との交流や社会体験の機会が十分ではない部分がある。  | 安全面への配慮や活動時間、移動手段等により、外出活動や地域との交流機会が限られてしまう場合がある。                            | 外出活動や地域資源を活用し社会体験の機会を増やしていく。児童が様々な社会体験を積むことができる機会を増やしていく。地域との関わりを通して社会性や経験を広げられるよう支援を行って行く。       |
| 3 | 保護者への情報の伝達や共有はマチコミ等で行っているが、確実に伝達する方法を再度検討していく必要がある。                                    | 保護者との関わり方が職員ごとに異なる場合があるため。   | 情報共有の方法や伝達の流れを整理し職員間で共通理解を図ることで保護者への情報提供をより分かりやすく行っていく。保護者との連携を大切にしながら安心して利用していただける支援体制の充実を図っていく。 |